

埼玉県内企業の 2015 年雇用動向調査

調査対象：県内企業 569 社

調査方法：アンケート方式（8月上旬 郵送回収）

回答企業：262 社(回答率 46.0%)

業種別内訳：製造業 150 社 非製造業 112 社

要旨

本調査は、埼玉県内企業の雇用情勢の現状と今後の見通しを把握するために実施した。

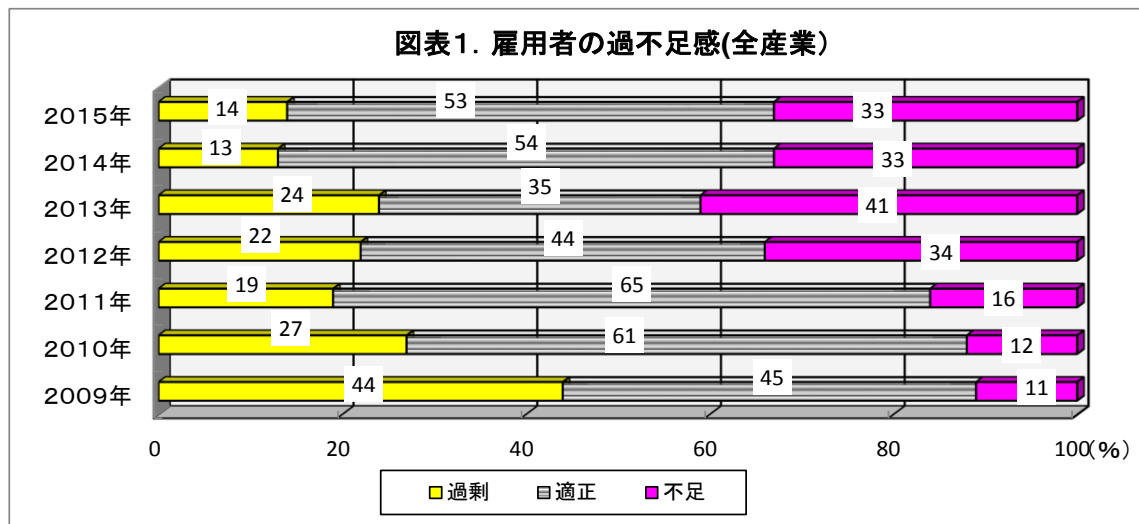
雇用情勢をみると、全産業で「適正」とする割合は 53%と選択肢の中で最も多く、「過剰」が 14%、「不足」が 33%となっている。前年から過剰感が薄れるとともに不足感も緩和され、「適正」が半数強となったが、今年もほぼ同様な情勢となっている。ただし、依然として、3割強の企業が不足感を拭えない状況が続いている。

一年後に見込まれる雇用者数については、「増加見込み」とする企業が 5 年連続で増加した後、今回は 45%と前年比 3 割減少している。県内企業の雇用は、一年後は増加ペースが鈍るものの、人手不足を背景とする増加基調が続くものとみられる。

1. 雇用者数の過不足感

(1) 適正が最多 ～前年とほぼ同様の状況～

2015 年の雇用者数の過不足感について、「過剰」、「適正」、「不足」の 3 択で尋ねたところ、全産業で「適正」とする割合は前年比 1 割減の 53%、「過剰」は 14%と同 1 割増に対し、「不足」は横ばいの 33%となっている。前年から過剰感が薄れるとともに不足感も緩和され、「適正」が半数強となったが、今年もほぼ同様な情勢となっている。ただし、依然として、3割強の企業が不足感を拭えない状況が続いている。（図表 1）

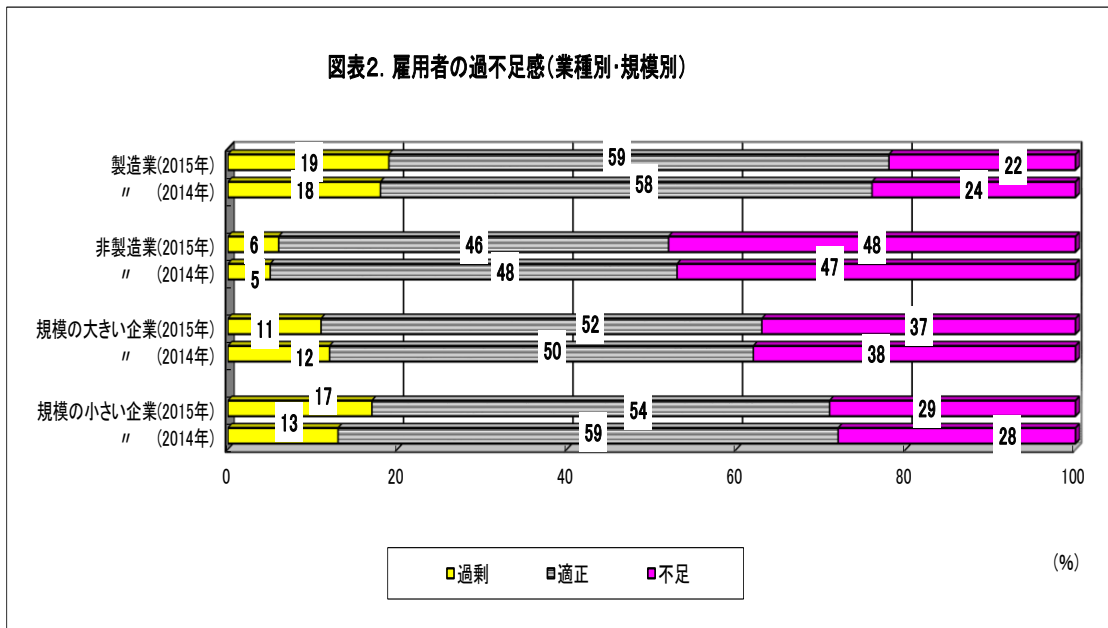


(2) 業種別・企業規模別 ～非製造業で不足感が強い～

業種別に雇用者数の過不足感をみると、「過剰」とする割合は、製造業が 19%、非製造業では 6%と、ともに前年比 1 割増となる一方、「不足」は製造業が前年比 2 割減の 22%、非製造業が同 1

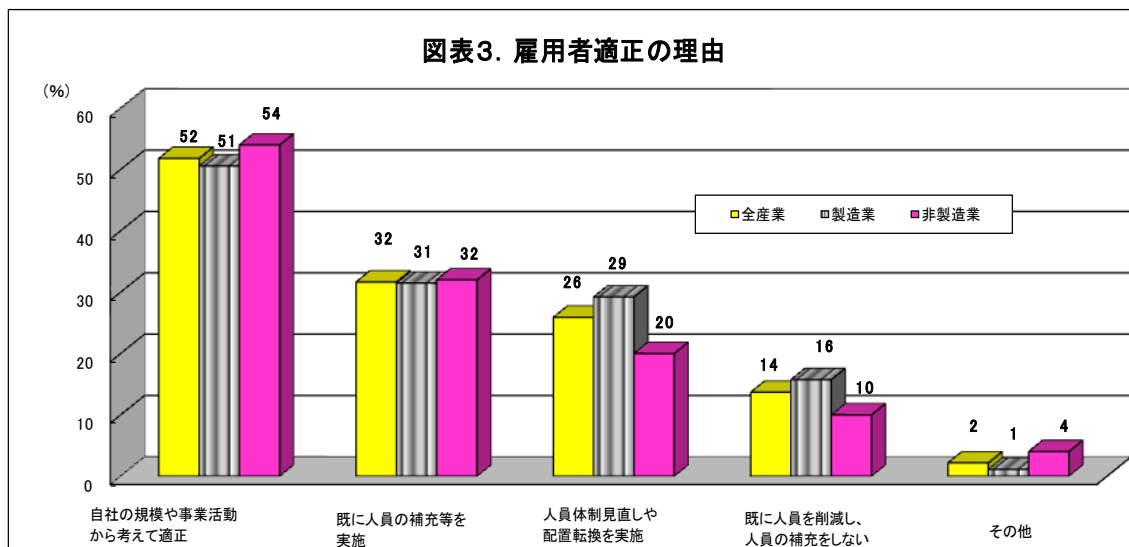
増の48%となっている。前年と比べ大きな動きは見られていない。非製造業は、製造業に比べ不足感が強く、特に、不足とする企業は運輸・倉庫で9割、建設業で7割にのぼっている。

規模別では、「過剰」とする割合は、従業員100人以上の企業（以下、規模の大きい企業）は前年比1割減の11%とほぼ横ばい、従業員100人未満の企業（以下、規模の小さい企業）は4割増の17%と、過剰感が若干強まっている。一方、「不足」は規模の大きい企業が前年比1割減の37%、規模の小さい企業では1割増の29%とほぼ前年と同様の結果となっている。規模の大きい企業の方が、規模の小さい企業に比べ不足感が強い状況となっている。（図表2）



2. 「適正」の理由（複数回答） ～「事業規模や事業活動から考えて適正」が半数～

今回調査で雇用者数が「適正」としている回答が53%と半数を占めている。「適正」とする理由を聞いたところ、全産業では、「自社の事業規模や事業活動から考えて適正と見られるため」が



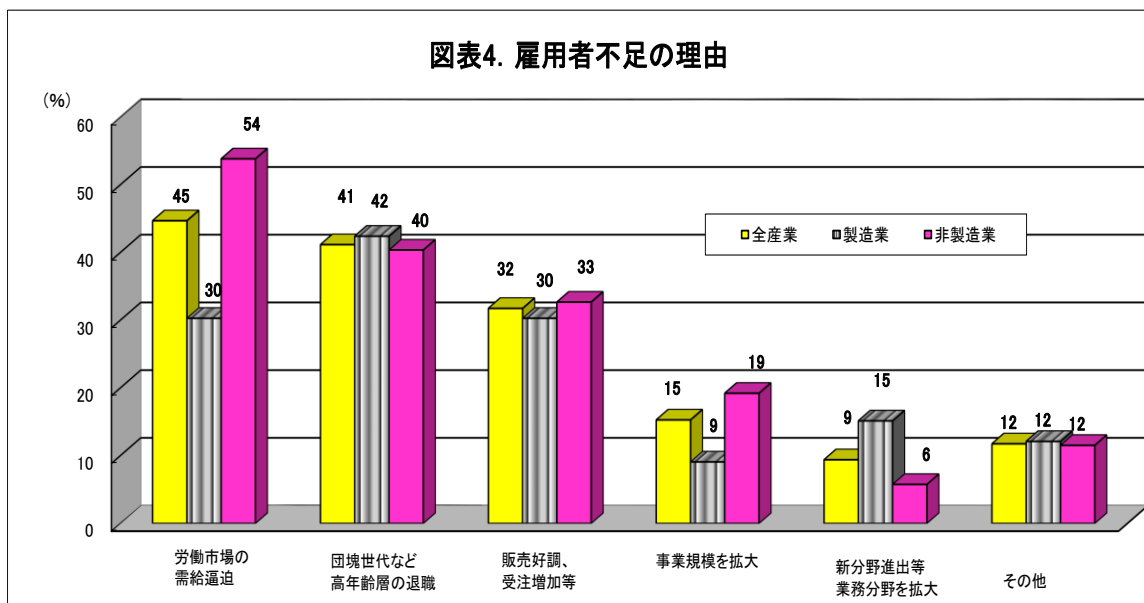
(注) 複数回答のため合計は100%にならない。

52%と最も多い。これに、「既に人員の補充等を実施しているため」が32%、「人員体制の見直しや配置転換などを実施したため」が26%などと続いている。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに、全産業と同様に、「自社の事業規模や事業活動から考えて適正と見られるため」が最も多い。これに、「既に人員の補充等を実施しているため」、「人員体制の見直しや配置転換などを実施したため」の順で続いている。(図表3)

3. 「不足」の理由（複数回答） ～非製造業で「労働市場の需給逼迫」が最多～

今回の調査でも雇用者数が「不足」としている回答が前年と同様に33%もあり、依然として不足感が強い状況にある。「不足」とする理由を聞いたところ、全産業では、「労働市場の需給逼迫」が前年比6割増の45%と最も多い。次いで、同28割と大幅に増加した41%の「団塊世代など高年齢層の退職」が4位から2位に順位を上げている。団塊世代（1947～49年生まれ）が65歳を過ぎ、労働市場から本格的に退出している状況が背景にあると考えられる。一方、同8割減の32%となった「販売好調、受注増加等」がトップから3位に後退している。以下、「事業規模を拡大」が15%、「新分野に進出等業務分野を拡大」が9%で続いている。

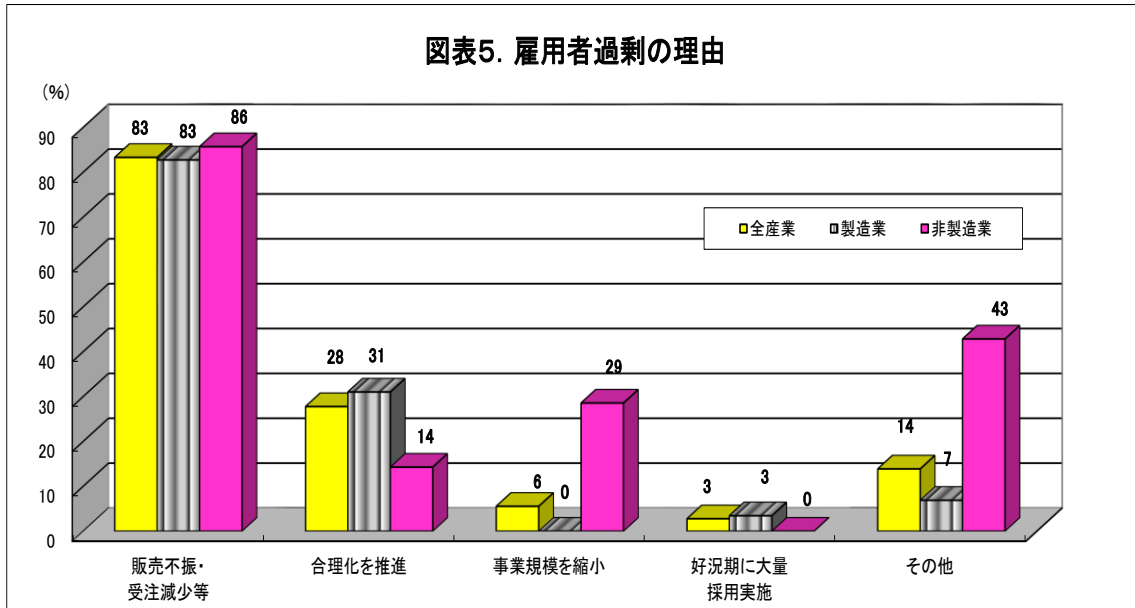


(注)複数回答のため合計は100%にならない。

業種別にみると、製造業では、「団塊世代など高年齢層の退職」が42%と最も多く、「労働市場の需給逼迫」、「販売好調、受注増加等」がともに30%、これに「新分野に進出等業務分野を拡大」が15%で続いている。非製造業では、「労働市場の需給逼迫」が54%と最も多く、これに「団塊世代など高年齢層の退職」が40%、「販売好調、受注増加等」が33%、「事業規模を拡大」が19%と続いている。製造業は一般機械で「販売好調、受注増加等」を、非製造業では一般建設で「団塊世代など高年齢層の退職」、運輸・倉庫で「労働市場の需給逼迫」をそれぞれ挙げる企業が多く見られた。(図表4)

4. 「過剰」の理由（複数回答） ～「販売不振・受注減少等」がトップ～

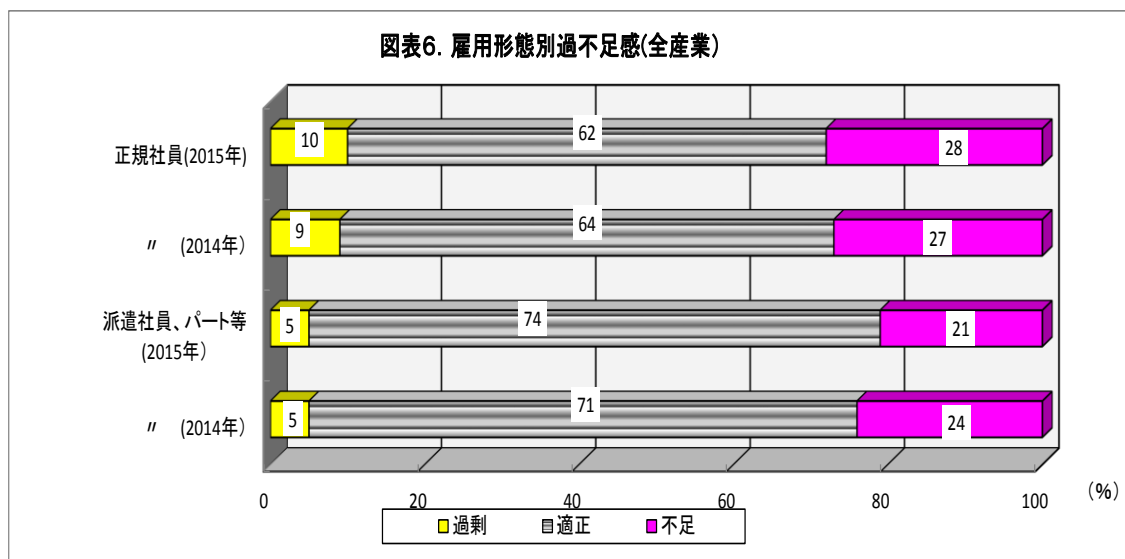
今回の調査では雇用者数が「過剰」としている回答は14%となっている。「過剰」とする理由を聞いたところ、全産業では「販売不振・受注減少等」が前年比12%増の83%と最も多く、これに「合理化を推進」が28%で続いている。「販売不振・受注減少等」は、特に非製造業で前年比26%増の86%と、大幅に増加している。「その他」では、世代交代に備えたり、繁忙期に備えたりするために、雇用者が過剰となっていると回答する企業も見られた。（図表5）



(注)複数回答のため合計は100%にならない。

5. 雇用形態別の過不足感 ～「不足」が「過剰」を上回る～

雇用者数の過不足感を正規社員と派遣社員・パート等の雇用形態別に尋ねたところ、正規社員では、「適正」とする割合が62%と前年比2%減となる一方、「過剰」が10%、「不足」は28%とそれぞれ同1%増となっている。「不足」が「過剰」を引き続き上回っている。

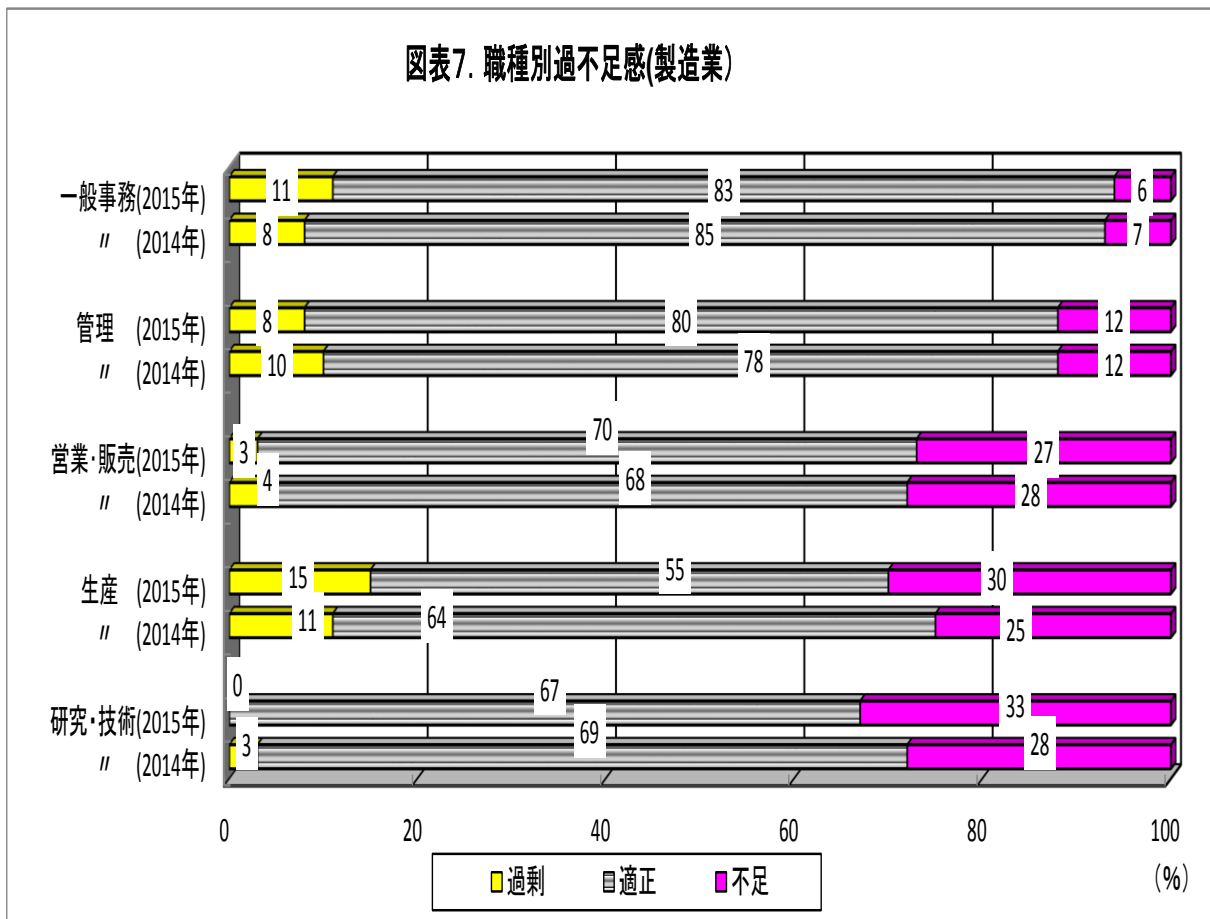


また、派遣社員・パート等では、「適正」とする割合が74%と大半を占める一方、「不足」は21%と、「過剰」の5%を大きく上回っている。派遣社員・パート等の不足感は、製造業は飲・食料品で、非製造業は運輸・倉庫などで、特に顕著である。(図表6)

6. 職種別の雇用動向

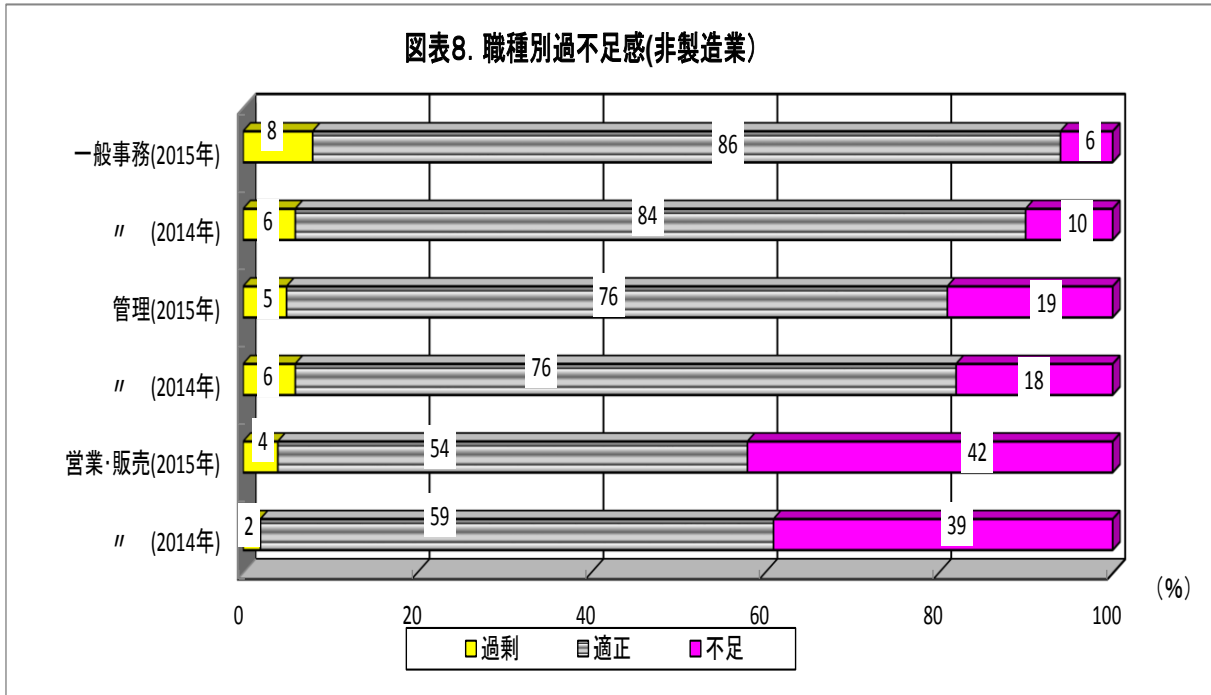
(1) 製造業 ～研究・技術開発部門で過剰感が解消～

職種別に製造業の雇用者数の過不足感をみると、いずれの職種も、「適正」とする割合が最も多い。「不足」は営業・販売部門、生産部門、研究・技術部門で約3割、これに対し、「過剰」は生産部門が15%、一般事務部門が11%と二桁を超えたものの、営業・販売部門で僅か3%にとどまり、研究・技術開発部門ではゼロと過剰感が解消されている。(図表7)



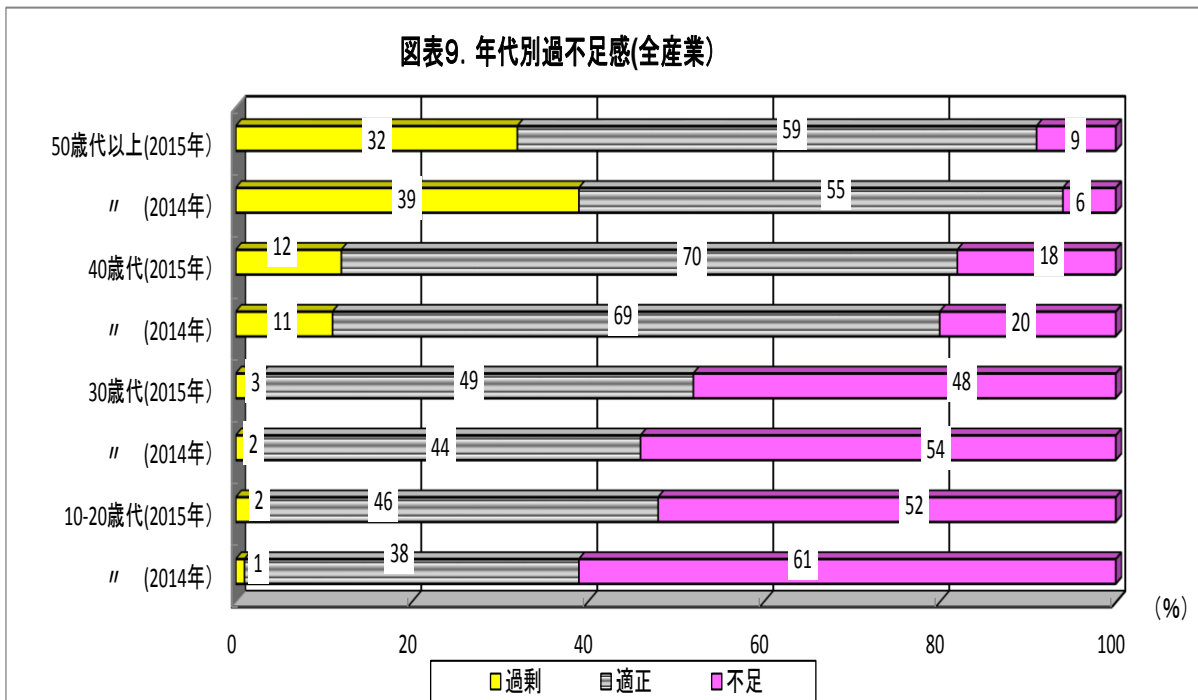
(2) 非製造業 ～営業・販売部門で不足感が強い～

非製造業では、いずれの職種も「適正」割合が最多である。「不足」は、各部門ともほぼ前年並であるが、特に営業・販売部門で42%と他の部門に比べ不足感が著しく強い状況が続いている。(図表8)



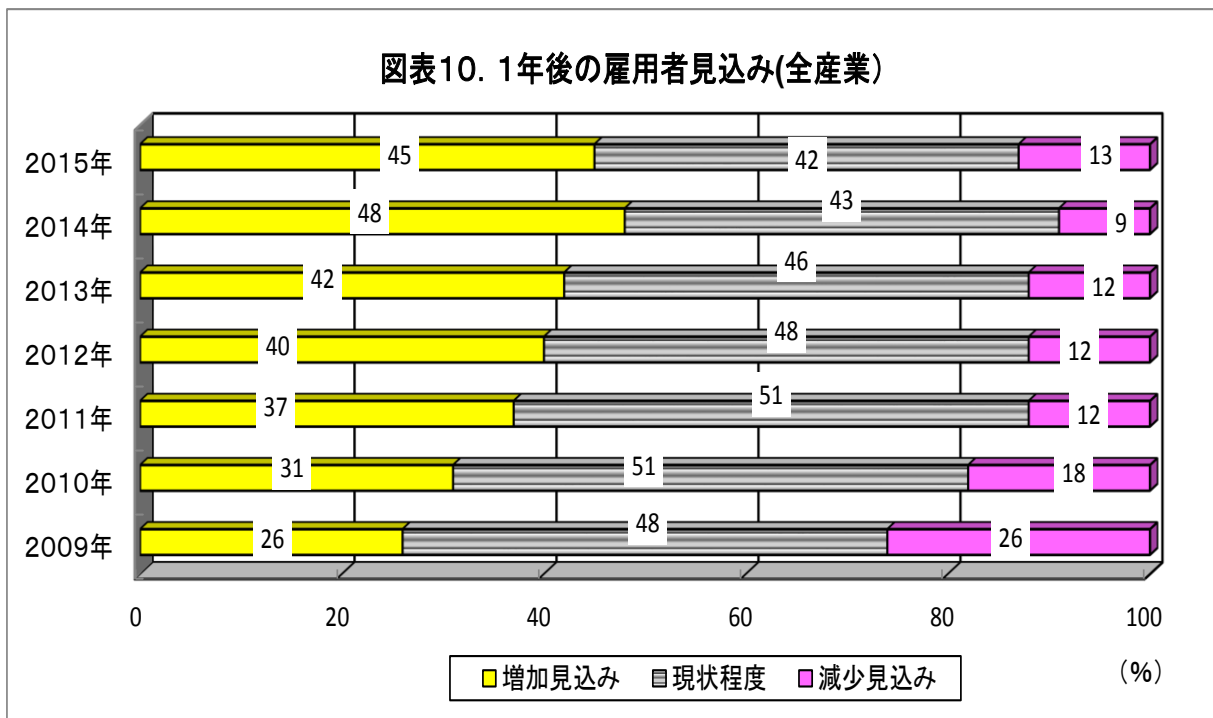
7. 年代別の過不足感 ～若年層で不足感が強い～

年代別の雇用者数の過不足感は、全産業で「過剰」が最も多かったのが50歳代以上の32%、次いで40歳代が12%と、高年齢層で過剰感が強い。一方、「不足」は10～20歳代では52%、30歳代で48%と前年に比べ減少しているものの、若年層での不足感が強い状況がうかがわれる。(図表9)



8. 一年後の雇用者数見込み ～約半数の企業が「増加見込み」～

一年後に見込まれる雇用者数についてみると、全産業で、「増加見込み」とする割合が45%と前年比3割減少する一方、「減少見込み」は同4割増加している。「増加見込み」はリーマン・ショックの影響を受けた2009年の26%を底に2014年まで5年連続で増加した後、今回の調査では若干減少している。県内企業の雇用は、一年後は増加ペースが鈍るものの、人手不足を背景とする増加基調が続くものとみられる。(図表10)



9. まとめ

埼玉県の有効求人倍率(公共職業安定所を通じて求職者1人に対し、企業から何件の求人があるかを示したもの)は、2006年、2007年は2年連続して1倍を超えていたが、2008年に0.87倍と1倍を割り込み、リーマン・ショック後の2009年には0.40倍と低下した。その後は持ち直し傾向にあり、2014年は0.62倍、2015年7月は0.84倍へと上昇している。

埼玉県内企業の雇用情勢をみると、雇用者数が「適正」としている回答が53%と選択肢の中で引き続き最も多い状況にある一方で、33%の企業が依然「不足」と回答している。雇用者数を「不足」としている企業にその理由を聞いたところ、「労働市場の需給逼迫」と「団塊世代など高年齢層の退職」が多く、ともに4割にのぼっている。年代別にみると、10-20歳代の「不足」の割合が52%に上り、若年層における労働力の不足感が強いことがうかがわれる。

今後は、15-64歳の生産年齢人口がさらに減少すると想定され、景気後退期に人手不足の程度が多少緩むことはあるとしても、構造的に雇用の不足感は緩和されにくいものと思われる。

(以上)